

# 学校給食に関する アンケート調査結果

柏市教育委員会 学校保健課  
令和3年10月

# 本アンケートの概要

## 1 目的

本調査は、児童生徒の給食に対する意識や実態を把握し、今後の運営に活かすために実施しました。

## 2 調査方法

各児童生徒に配付しているタブレット端末を活用してアンケートに回答

## 3 対象者

市内公立小中学校に通う児童生徒（小学4年生～中学3年生）

※対象児童生徒数21,423人（令和3年5月1日現在）

※児童生徒1人につき1回答

## 4 調査期間

令和3年7月12日（月）～令和3年7月20日（火）

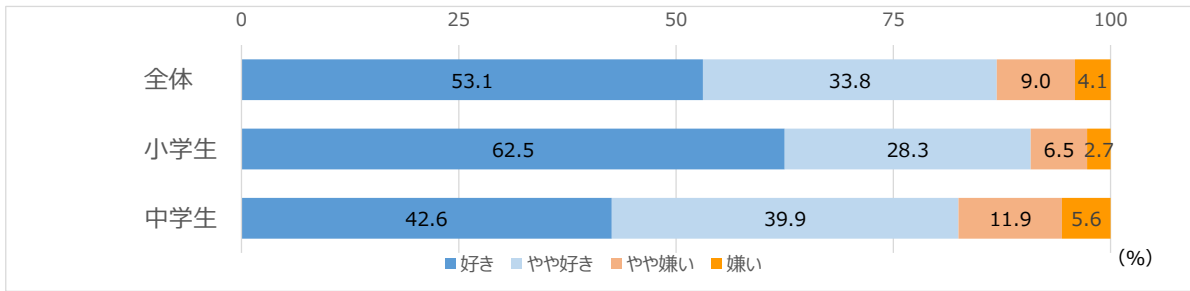
## 5 回答数

区分	回答数
対象児童生徒数	21,423人
回答数	19,767人
回答率	92.3%

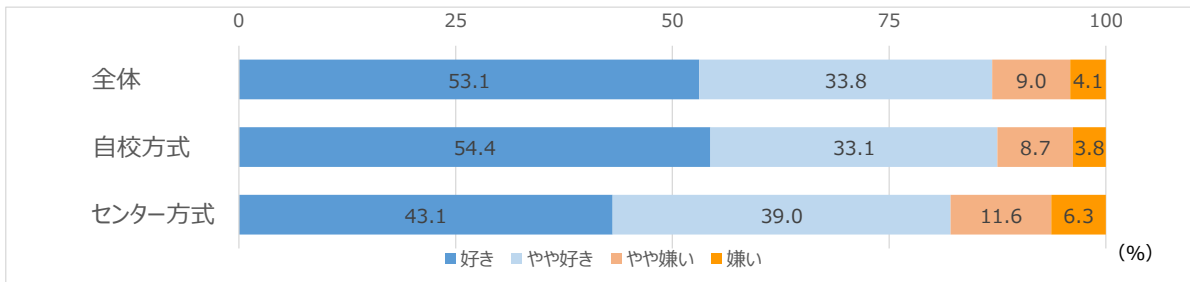
# アンケート調査結果

## ① 給食は好きか

学齢別（小学生・中学生）



提供方式別（自校方式・センター方式）



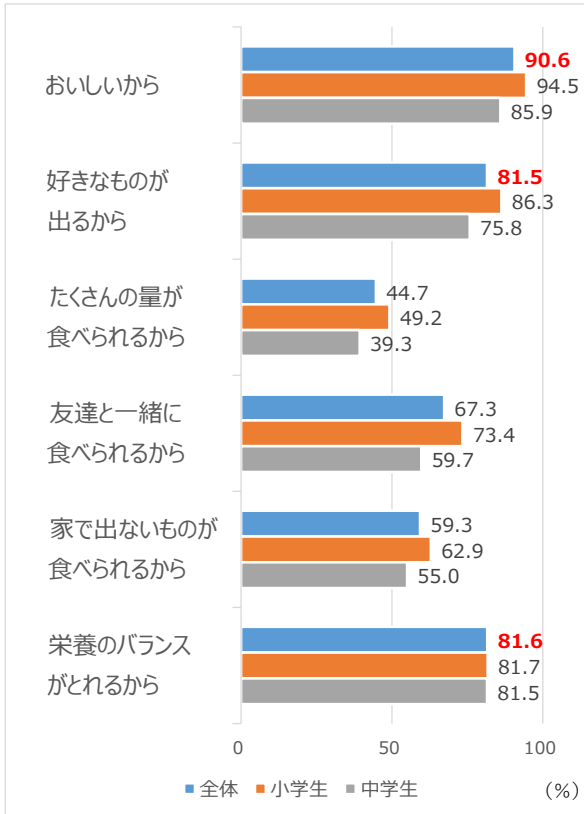
給食が「好き」（53.1%）「やや好き」（33.8%）と回答した児童生徒の合計は全体で86.9%となりました。

特に、「好き」と回答した割合は、小学生と中学生で大きな差がありました。提供方式別では、センター方式よりも自校方式の方が高くなっています。

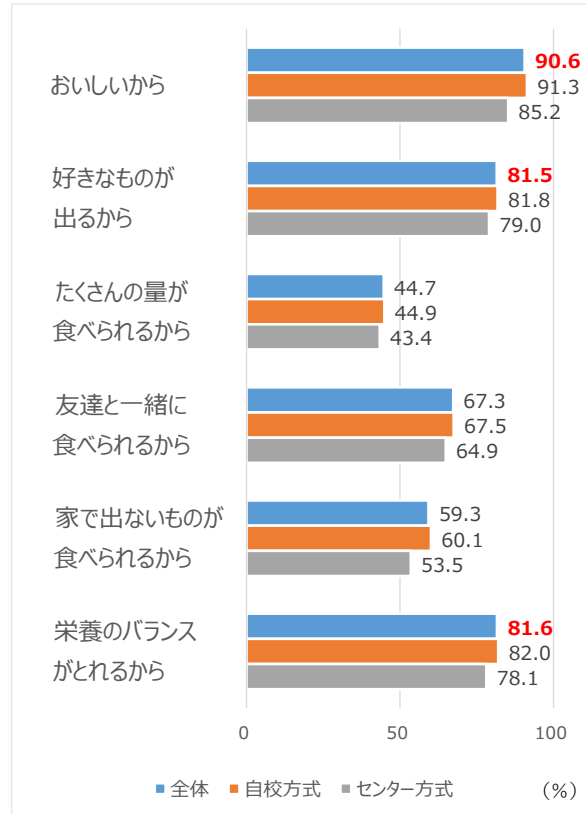
① - 1 給食が好きな理由（複数回答）

（給食が好き、やや好きと回答した人）

学齢別（小学生・中学生）



提供方式別（自校方式・センター方式）

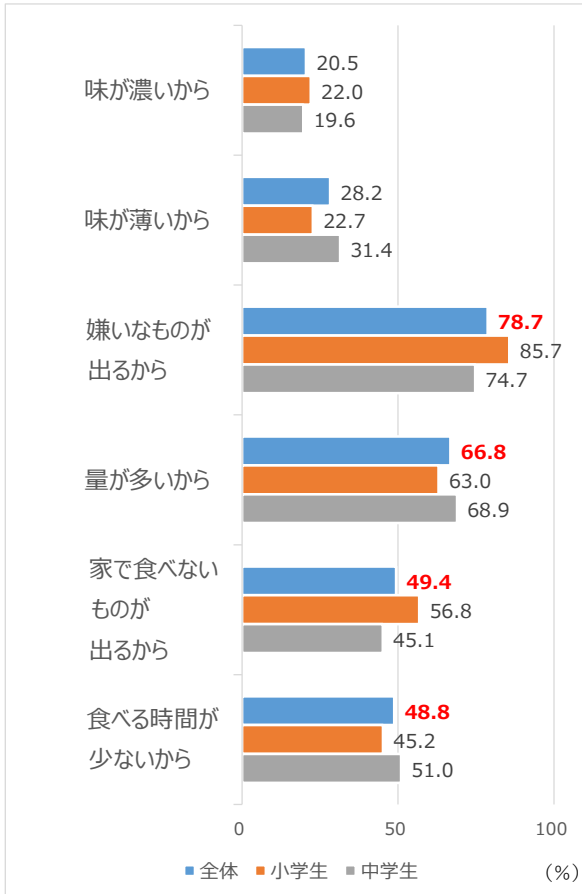


給食が好きな理由は、「おいしいから」（90.6%）が最も高く、「栄養のバランスがとれるから」（81.6%）、「好きなものが出るから」（81.5%）となりました。また、学齢別と提供方式別で同じ傾向が見られました。

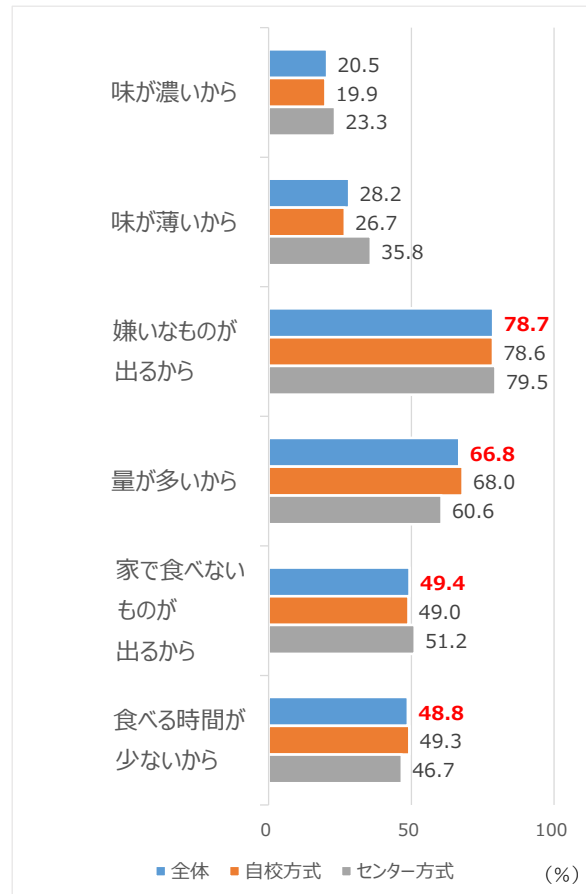
① - 2 給食が嫌いな理由（複数回答）

（給食がやや嫌い、嫌いと回答した人）

学齢別（小学生・中学生）



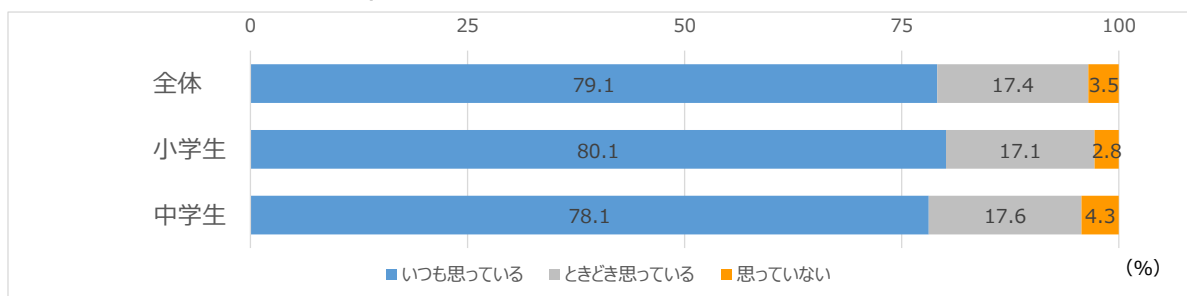
提供方式別（自校方式・センター方式）



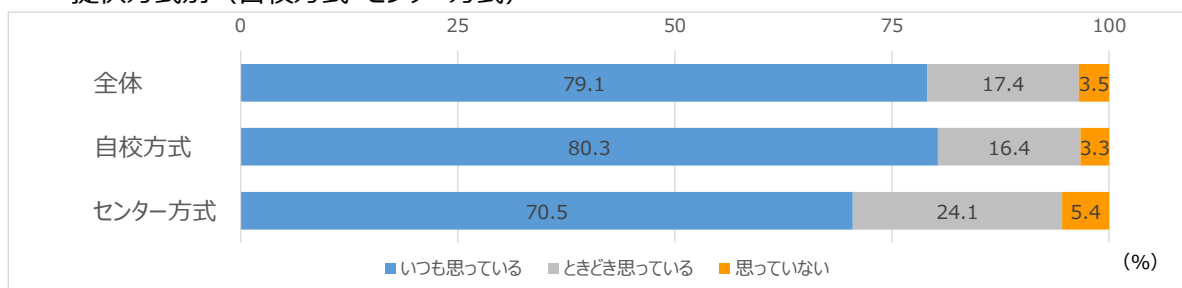
給食が嫌いな理由は、「嫌いなものが出るから」（78.7%）が最も高く、「量が多いから」（66.8%）、「家で食べないものが出るから」（49.4%）、「食べる時間が少ないから」（48.8%）となりました。また、学齢別と提供方式別で同じ傾向が見られました。

## ② 給食はできるだけ食べようと思っているか

学齢別（小学生・中学生）



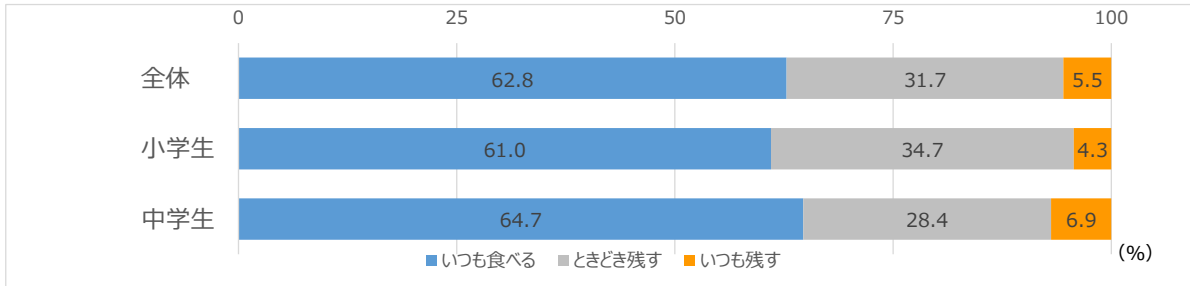
提供方式別（自校方式・センター方式）



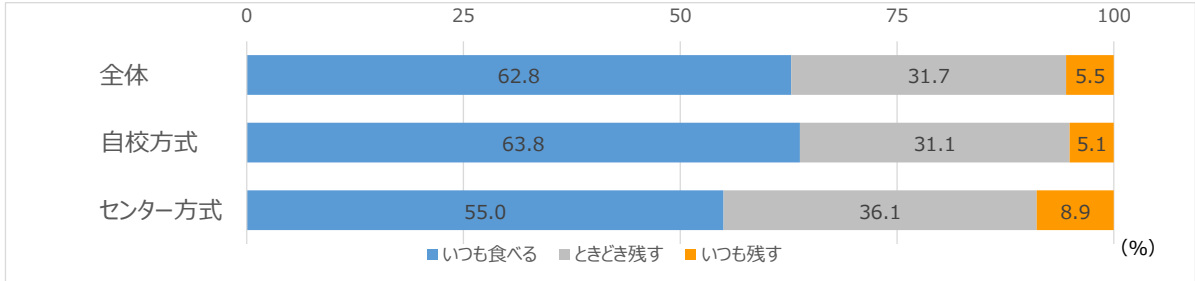
給食をできるだけ食べようとする意識は、「いつも思っている」が79.1%となり、「ときどき思っている」「思っていない」を大きく上回りました。また、センター方式よりも自校方式の方が高くなっています。

### ③ 給食は全部食べるか

学齢別（小学生・中学生）



提供方式別（自校方式・センター方式）

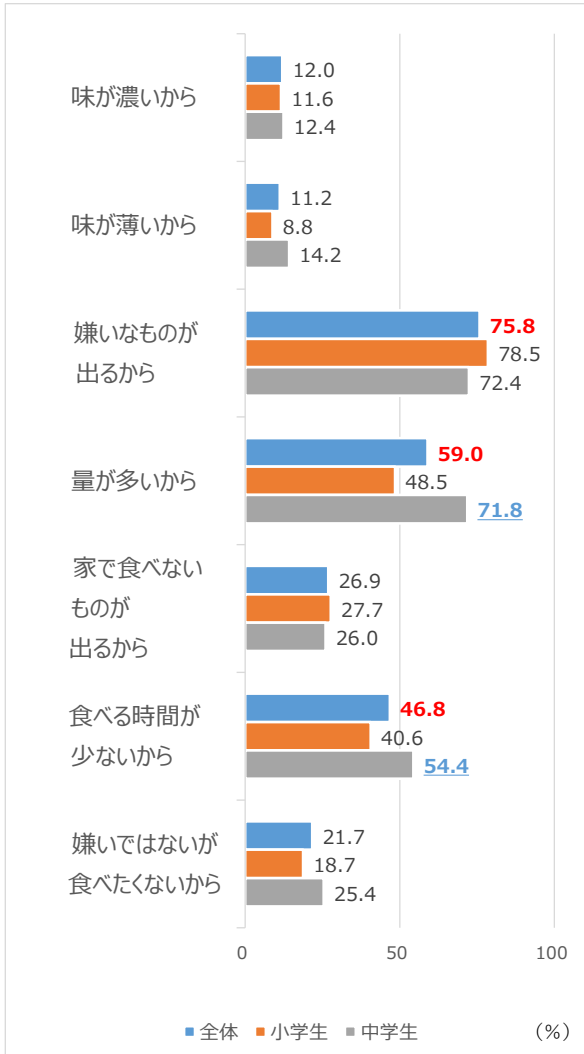


給食を「いつも（全部）食べる」と回答した児童生徒の割合は62.8%となり、「ときどき残す」「いつも残す」を大きく上回りました。また、センター方式よりも自校方式の方が高くなっています。

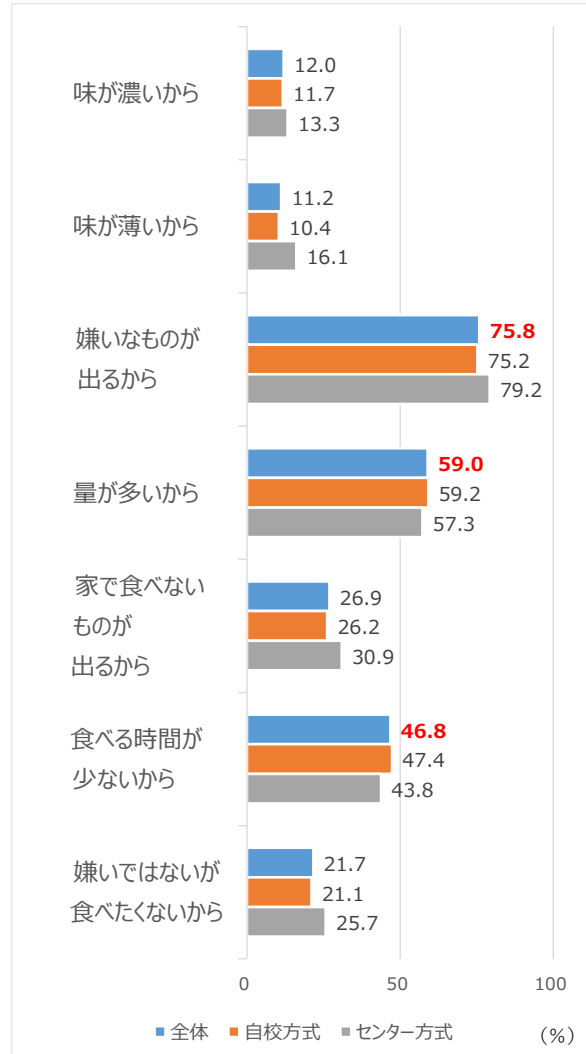
③ - 1 給食を残す理由（複数回答）

（給食はときどき残す、いつも残すと回答した人）

学齢別（小学生・中学生）



提供方式別（自校方式・センター方式）

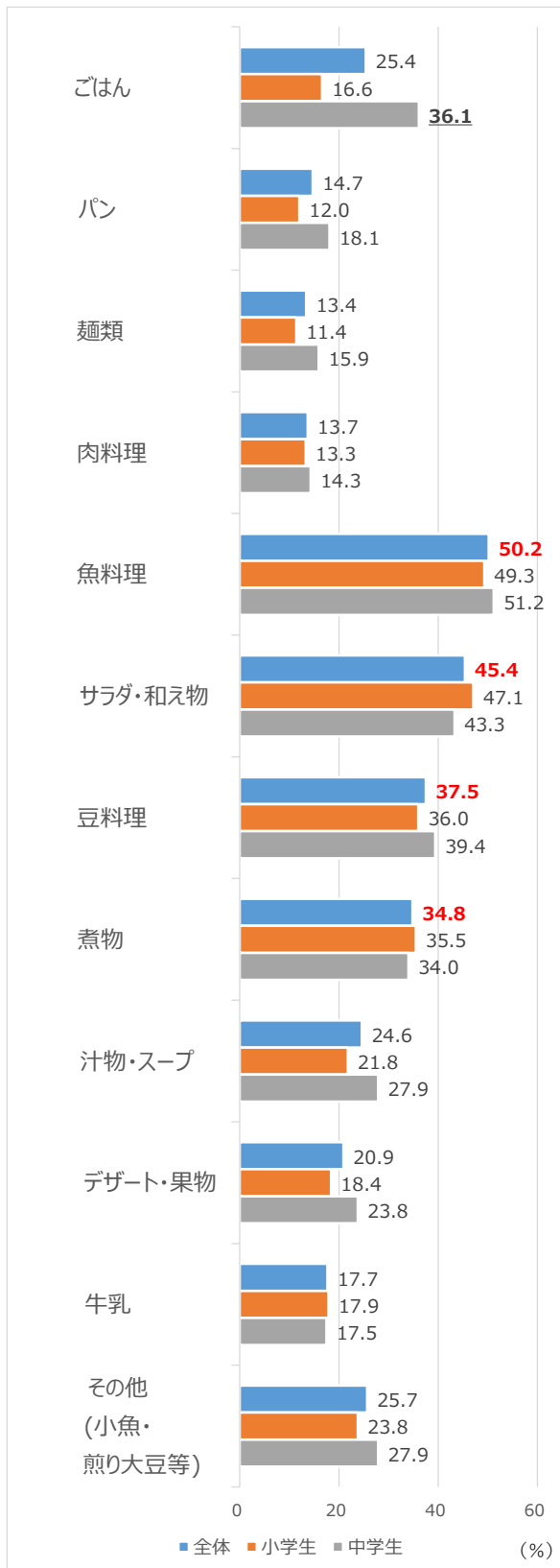


給食を残す理由は、「嫌いなものが出るから」（75.8%）が最も高く、「量が多いから」（59.0%）、「食べる時間がないから」（46.8%）となりました。また、学齢別と提供方式別で同じ傾向が見られましたが、「量が多いから」「食べる時間が少ないから」と回答した割合は、小学生よりも中学生の方が高く、大きな差がありました。

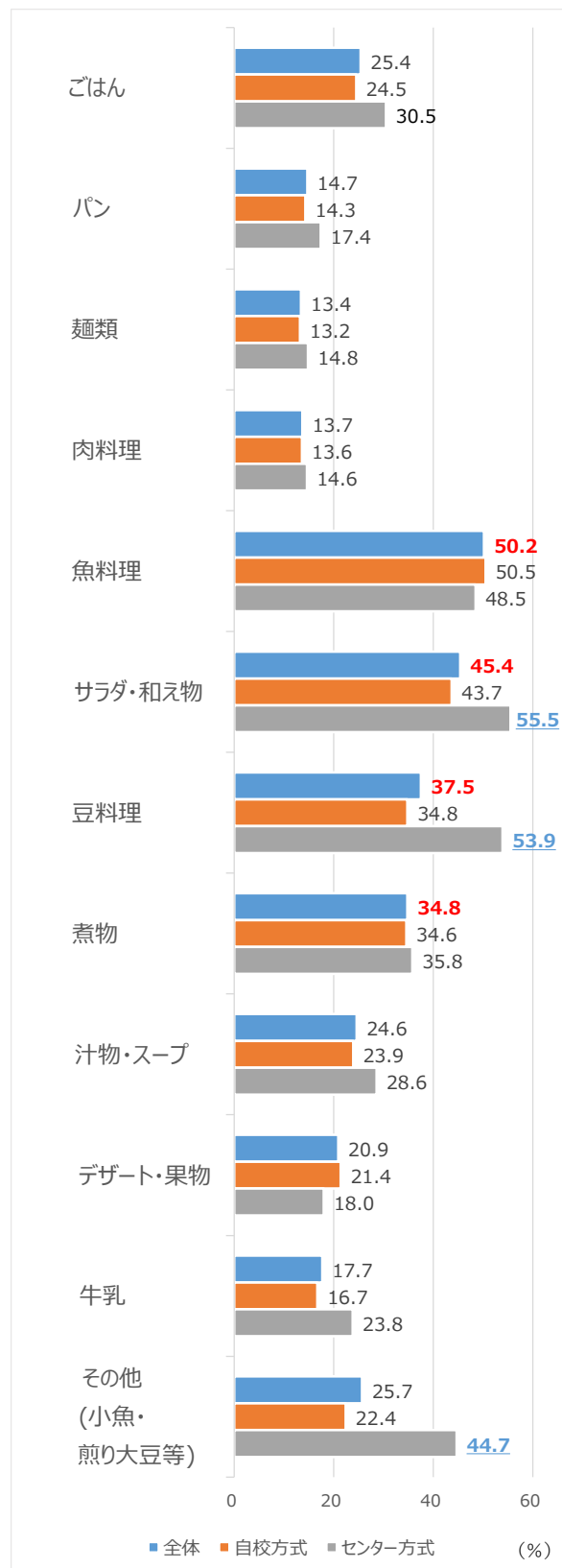


③-2 給食でよく残すもの（複数回答）  
 （給食はときどき残す、いつも残すと回答した人）

学齢別（小学生・中学生）



提供方式別（自校方式・センター方式）

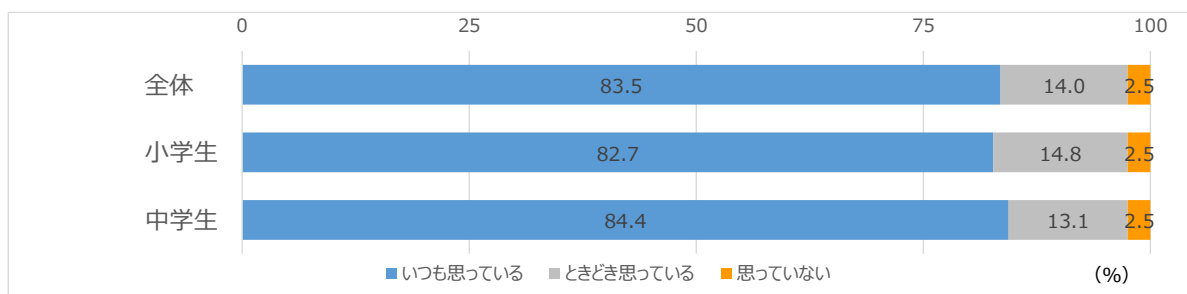


給食でよく残すものは、「魚料理」（50.2％）が最も高く、「サラダ・和え物」（45.4％）、「豆料理」（37.5％）、「煮物」（34.8％）となりました。

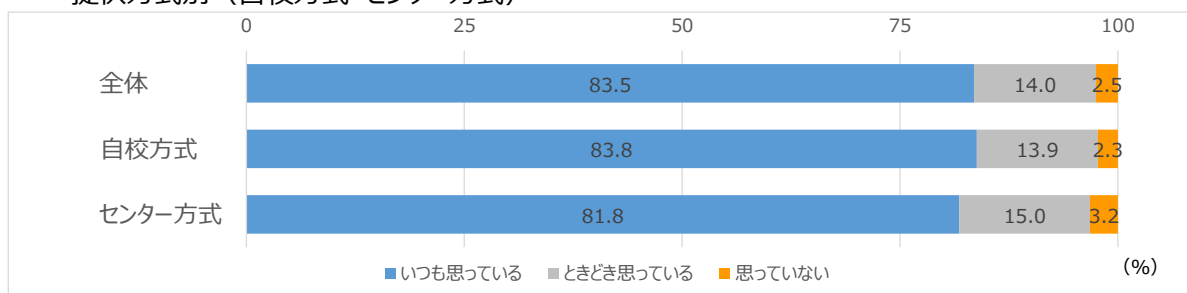
特に、「ご飯」を残すと回答した割合は、小学生よりも中学生の方が高く、大きな差がありました。また、「サラダ・和え物」「豆料理」「その他（小魚等）」を残すと回答した割合は、自校方式よりもセンター方式の方が高くなっています。

#### ④ 家での食事はできるだけ食べようと思っているか

学齢別（小学生・中学生）



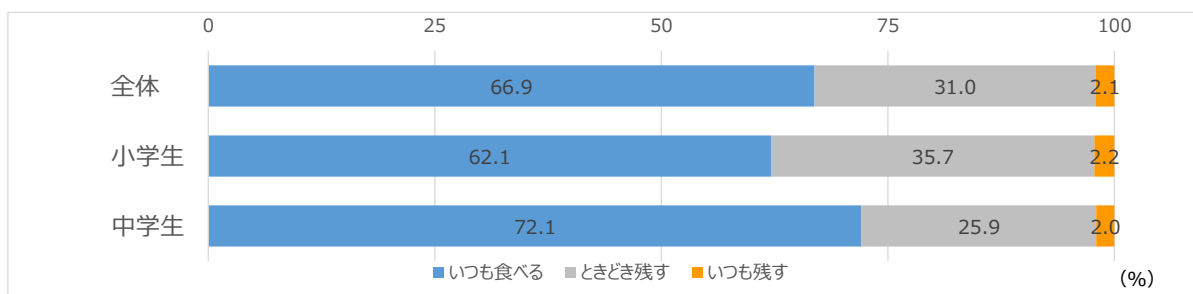
提供方式別（自校方式・センター方式）



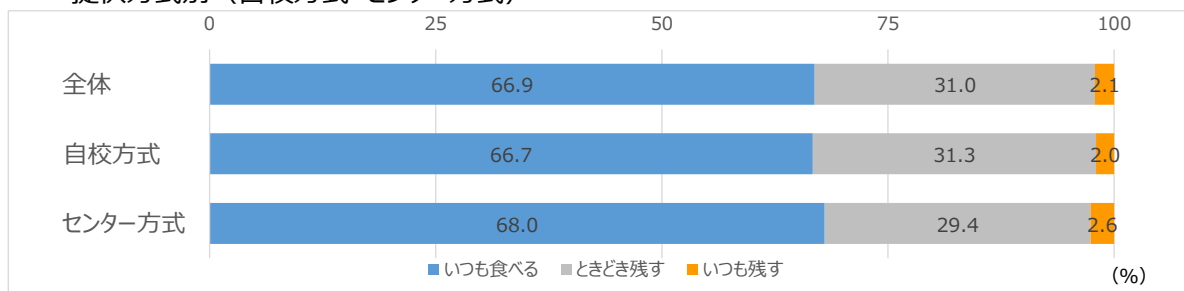
家での食事をできるだけ食べようとする意識は、「いつも思っている」が83.5%となり、「ときどき思っている」「思っていない」を大きく上回りました。

## ⑤ 家での食事は全部食べるか

学齢別（小学生・中学生）



提供方式別（自校方式・センター方式）



給食を「いつも（全部）食べる」と回答した児童生徒の割合は66.9%となり、「ときどき残す」「いつも残す」を大きく上回りました。また、小学生よりも中学生の方が高くなっています。

## 総評

給食を「好き」「やや好き」と回答した児童生徒の割合は全体で8割以上となり、その理由は、「おいしいから」「栄養のバランスがとれるから」「好きなものが出るから」で8割を超えています。栄養バランスの良さに対する評価も高いことから、子どもたちはおいしさや嗜好だけでなく、食に対する知識や興味を持って給食を食べていると考えられます。

給食を「好き」と回答した割合は、中学生よりも小学生の方が高くなっています。小学校では「食べ物への関心をもつこと」や「楽しく食事すること」等の食育指導が行われていることが考えられます。また、自校方式よりもセンター方式の方が低くなっています。センター方式の食育指導の現状を検証し、意識を高めていく必要があると考えます。

給食が嫌いな理由は、「嫌いなものが出るから」が約8割で最も多く、次いで「量が多いから」「家で食べないものが出るから」「食べる時間が少ないから」となっています。

給食を残す理由も同じ傾向であり、学齢や提供方式に関わらず、献立や料理の味付けよりも、料理に対する好き嫌い、給食の量、食べる時間が少ないことが給食を残す理由となることがわかりました。

また、残す理由では「量が多いから」「食べる時間が少ないから」と回答した割合、残す料理では「ご飯」と回答した割合は中学生で高く、残す料理のうち「サラダ・和え物」「豆料理」「その他（小魚・煎り大豆等）」は自校方式とセンター方式で差が見られました。中学生になるとご飯の量が増える一方で給食時間が短くなるとともに、現在の給食センターは施設が狭く、調理に制限を受けている状況にあることから、本調査結果を踏まえた対策を検討していくことが必要だと考えます。

学校給食は、子どもたちの好き嫌いや嗜好だけで実施することは難しいことから、嫌いなものであってもおいしく食べられるような工夫や、給食の良さを知ってもらい、おいしく感じるような取り組みを進めていく必要があります。

給食や家庭での食事を食べようとする意識に比べて、「いつも（全部）食べる」と回答した割合は低くなっています。食べようとする意欲はあるものの、好き嫌い等によって食べられないことがわかりました。給食の食べ残しは、学校での食育指導だけでは解決が難しい問題であることから、家庭と連携して取り組む必要があると考えます。